

# スペース工程表作成委員会報告

光赤天連運営委員会より

川端弘治(広島大)、栗田光樹夫(京都大, 幹事)、  
松原英雄(JAXA, SPICA兼)、宮田隆志(東京大)

各ミッションより

郷田直輝(NAOJ, JASMINE)、住貴宏(大阪大, WFIRST/Euclid)、  
松浦周二(JAXA, CIBER/EXZIT)、山田亨(東北大, WISH)、  
米徳大輔(金沢大, HiZ-GUNDAM)

# 概要

宇宙研における戦略的中型計画および小規模プロジェクトの公募に伴う、「研究分野毎の目標(将来ビジョン)と戦略、戦略に基づいた工程表(ロードマップ)」の提出依頼(11月18日予期連絡、12月26日正式依頼)に応じ、2月2日に提出



# 経過(スペース関連検討含む)

- 9月10日 光赤天連シンポジウム 将来計画検討書中間報告  
SPICAの現況報告、WISHの戦略的中型公募への応募方針、スペース計画検討の必要性
- 9月10日 光赤天連総会 SPICA TF(STF)設置方針承認
- 9月26日, 10月8日, 22日 光赤天連運営委員会(TV) -- 11/26シンポについて
- 11月18日 宇宙研:戦略的中型公募・ロードマップ作成に関する説明会  
研究領域の目標・戦略・工程表(RFI)提供のお願い(案)とおおよその締切時期の提示
- 11月25日 光赤天連運営委員会(TV) -- 11/26シンポのとりまとめ
- 11月26日 光赤天連シンポジウム スペース将来計画 工程表作成委員会設置方針
- 12月19日 gopira ML へRFI提出、及び工程表作成委員会設置について周知
- 12月26日 RFI提供のお願い正式版、締切提示
- 1月5日 JAXA/ISASへ「RFIの提出意志表明」書類を提出
- 1月9日 スペース工程表作成委員会(TV) 章立て、担当者、編集方針の確認
- 1月23日 スペース工程表作成委員会(TV) 第1,2章調整、第3章方針の確認
- 1月29-31日 RFIドラフトを将来計画検討書編集委員およびgopira MLへ回覧
- 2月2日 JAXA/ISASへRFIを提出

# 提出したRFI（全19ページ）

Executive Summary	1ページ
1章 光学赤外天文学分野の将来ビジョン（サイエンス、及び各プロジェクトとの関係）	4ページ
2章 光学赤外天文学分野の戦略（戦略概要、ミッション間の関連付けと優先順、ミッション概要）	11ページ
3章 光学赤外天文学分野の工程表	2ページ
参考文献	1ページ

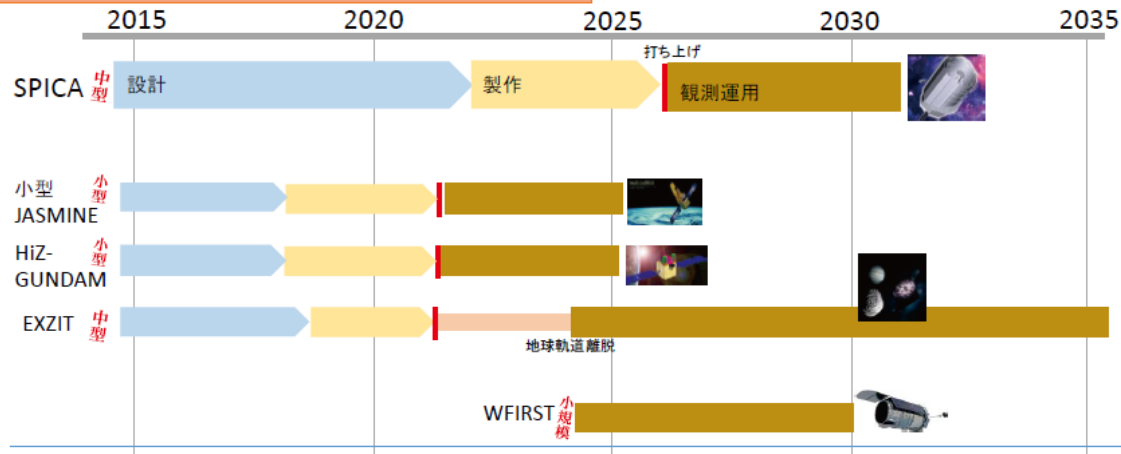
## Executive Summary

2020年代以降の光学赤外線天文学分野の発展においては、地上だけに留まることなく、スペースからの観測を実現することが必須と考える。これまで地上をベースに活動してきたグループと、既にスペースをベースに活動してきたグループが手を携えて、2020年代に最重要と考える科学目標の達成を目指していく。そしてこの観測を通じて新たな革新的な技術の獲得と人材育成を絶やさず進めて行く。

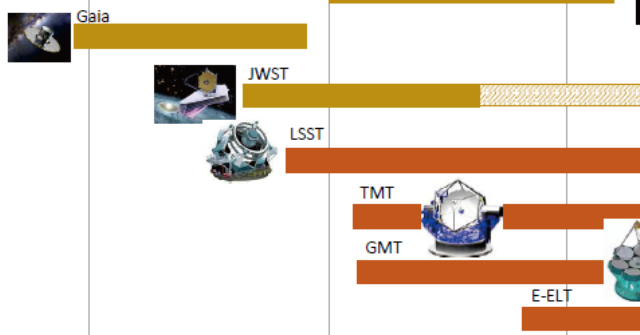
これまで光赤天連は、次世代赤外線天文衛星SPICAの実現を求めて来た。昨今の事情によりその実現時期の遅延や仕様の変更が検討されているが、SPICAの実現を最優先で望むことには変わりがない。ただしSPICAが何らかの理由により2030年代にずれ込むような場合には、コミュニティとしての持続的な成果創成と人材育成の観点から、SPICAの推進に加えて、超広視野初期宇宙探査衛星WISH（中型計画）、あるいは小型JASMINE等（公募型小型計画）を2020年代初頭に打ち上げることが重要な意義を持ち得ると考える。またWFIRST/WACO等小規模プロジェクトや、EXZITやHiZ-GUNDAM等の異分野連携プロジェクトを並行して推進することも上述の基幹ミッションとの相補性の観点から重要と考える。



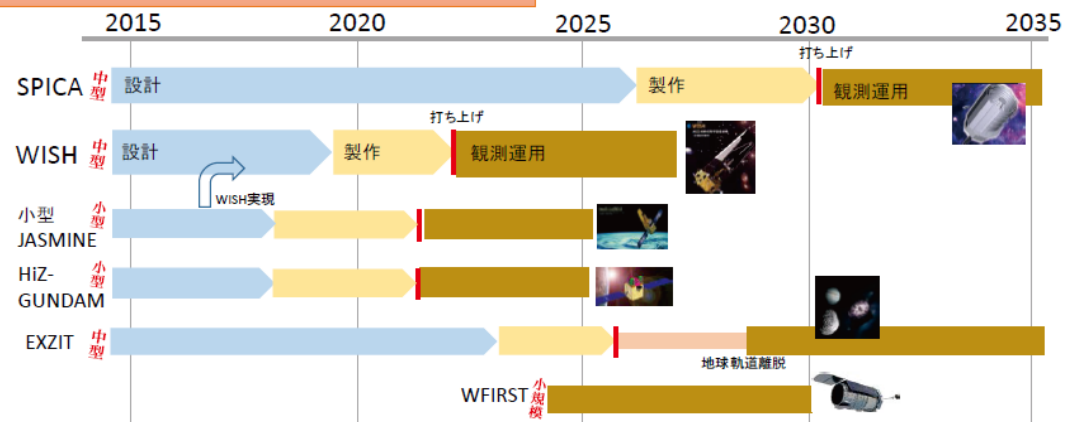
ケース1：SPICAが2020年代中・後期に打ち上げられる場合



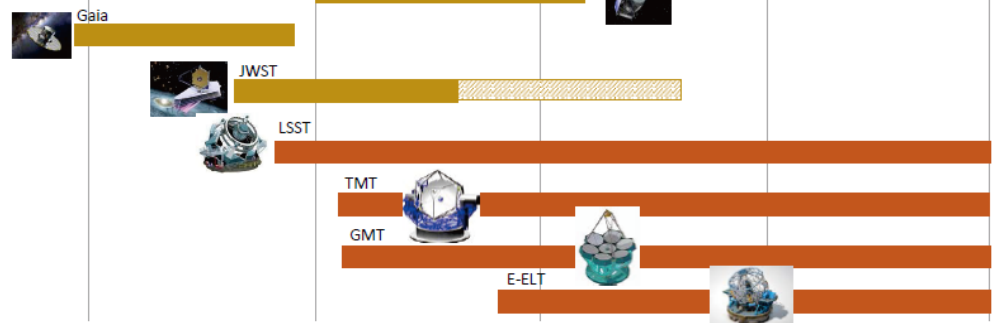
諸外国の関連する計画



ケース2：SPICAの打ち上げが2030年代にずれ込む場合



諸外国の関連する計画



# 今後(個人的見解、コメント)

- 今後も随時、宇宙研からコミュニティへ工程表の提出が求められる可能性あり。公募審査に直結する。
- その提出締切が正式依頼から1カ月余り、予告から2カ月半という、コミュニティで議論を行うには短すぎることもあるだろう。(宇宙研側としては、宇宙科学ロードマップを~1年前に提示し、その後も宇宙理学委員会で議論しコミュニティ喚起してきたという自負があると思うので、無下に拒否することはできないだろう)
- 国内外の情勢は日進月歩であり、コミュニティの工程は、毎年更新していくつもりでないと廃れる。
- 光赤外(スペース)工程は毎年、議論する必要あり。